

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

2025年 10月 7日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団

会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科アフリカ地域研究
専攻

職 名・学 年 5年一貫制博士課程 5年

氏 名 田中綾華

助 成 の 種 類	令和7年度 ・ 国際研究集会発表助成		
研 究 集 会 名	22nd International Conference on Ethiopian Studies (ICES22)		
発 表 形 式	☐ 招 待 ・ ☒ 口 頭 ・ ☐ ポスター ・ ☐ その他(		
発 表 題 目	Musical Performance and Opportunities to Perform among the Aari in Southwestern Ethiopia		
開 催 場 所	Hawassa University, Ethiopia		
渡 航 期 間	2025年 9月 25日 〜 2025年 10月 7日		
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版1枚程度で作成し、添付して下さい。 「成果の概要」以外に添付する資料 ☒ 無 ☐ 有()		
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	350,000円	
	使用した助成金額	350,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳 (差し支えなければ要した 経費総額をご記入ください)	費 目	金額(円)
		航空運賃	303,040
		宿泊費(1USD＝148円で計算)	48,900
		滞在費(1USD＝148円で計算)	30,000
		学会参加費(1USD＝148円で計	7,400
その他(VISA申請費用)	9,176		
以上に助成金を充当			
当財団の助成についで	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) この度は国際研究集会への参加・発表にともなう助成をいただき誠にありがとうございました。金銭面への不安から、海外で開催される学会への参加が難しいと考えておりましたが、貴在団からの援助により参加することができました。この機会を通じて、自身の興味関心や研究について発表する機会を得られただけでなく、自身とは異なる関心、調査地域で研究活動をおこなう研究者と交流することが叶いました。今後とも博士課程大学院生を含む若手研究者への支援をぜひとも継続していただけますと幸いです。		

■

■ 学会概要

報告者は、国際研究発表助成を利用し、エチオピア・シダマ州アワサ大学にて 2025 年 9 月 29 日から 10 月 3 日にかけて合計 5 日間実施された 22nd International Conference on Ethiopian Studies(第 22 回国際エチオピア研究会議)に参加し、口頭発表をおこなった。ICES は、エチオピアとその周辺地域に関連する研究発表と議論をおこなう場として 3 年ごとに開催される国際研究会議である。主要な分野は歴史、言語学、宗教学であるが、他にも考古学、社会科学、文化人類学など幅広い分野の研究者が集いエチオピア研究の多様な側面を反映している。今回のICES22 では、上記の分野に加えて農学、植物学に関連する研究発表が活発におこなわれた。報告者の研究テーマである在来音楽を対象とした研究発表は多数とは言えなかったが、エチオピア正教をはじめとした宗教音楽、儀礼などへの強い関心があることを実感した。

■ 発表内容概要

今回の口頭発表では、エチオピア西南部におけるアリ人のタケ製気鳴楽器(オイサ)を用いた演奏実践をえがきだし、オイサの演奏機会が地方行政や奏者自身によって新しくつくりだされていることを明らかにすることを目的として、調査地域に設立された 2 つの演奏集団を対象とした 3 回のフィールドワーク(2022 年から 2025 年 1 月までの合計 225 日)の成果を発表した。

今回の発表で示した主な成果は以下の 3 点である。(1)オイサ演奏は農作業における共同労働や冠婚葬祭など、日常生活のなかで実践されてきた。これらの活動を通じて演奏の実践に参加し、演奏技術を獲得する機会を得ていた。(2)1980 年代からプロテスタント信仰の浸透によってオイサの機会が減少したが、2020 年代には地方行政が演奏機会を増加させる取り組みに着手した。(3)2023 年には、集団のリーダーが主導して技術継承の機会を積極的につくりだそうとしていることが明らかになった。

■ 学会参加に伴い得られた知見

今回の発表・質疑応答を通じて、地域社会の変化に対応する演奏者の主体性や、行政と音楽文化のかかわりに関心を寄せる研究者らと意見交換をおこなうことができた。また、エチオピア国内で芸術文化を対象として研究をおこなう学生・研究者との交流を通じて、今後の研究活動における基盤となりうるネットワークを築くことができた。さらに、今回の研究会議ではエチオピア各地域で撮影された映像作品の上映や、アーカイブプロジェクトによって

保存・公開された映像資料の上映がおこなわれた。この発表と質疑応答への参加を通じて、報告者自身が収集した映像・音声資料の公開方法や保存方法を検討するうえで重要な知見を得た。

■ 謝辞

本報告は、京都大学教育研究振興財団による国際研究集会発表助成を受けて実施した研究発表の成果である。このような機会を得ることができた貴在団の支援に対し、深く感謝申し上げます。



図 ICES22 にて口頭発表をおこなう報告者